

「立教学院と戦争」を担当して

老川 慶喜

1 立教学院史資料センターの設置

私が立教大学経済学部「日本経済史」担当の教員として赴任したのは、いまから24年前の1991年であった。当時、「立教学院125年史」の編纂作業が進んでおり、私もその業務に加わるようになった。立教大学の学部と大学院で学んできたとはいえ、経済史を専門としているので、教育史の分野に入る立教学院の歴史などまったくわからなかったし、興味もなかった。それでも経済学部（学部長）から125年史編纂委員になるようにと言われたので、編纂会議に出席し、編纂業務に携わってきた。

125年史は、当初は通史編の刊行も視野に入れていたようであるが、編纂作業が進んでいくうちに、通史編の刊行は無理だという結論に達した。立教学院では、これまで80年史、100年史などを刊行していたが、いずれも通史のスタイルをとっており、体系的な史料調査が行われた形跡はなかった。

そこで、125年史では、まず基本的な史料調査をしっかりと行い、実証的にしっかりと立教学院史を編みたいと考えていた。調査を進めれば進めるほど、通史編を執筆するのは困難という思いが強くなった。というのは、125年史の編纂過程でかなりの資料を集めることができたが、これらの資料を十分に咀嚼して新たな通史を執筆するにはもう少し時間がかかるということが明らかになったからである。その

ためには、さらなる資料の発掘と学院史に関する研究を深めなければならないと考えられたのである。

さいわい、立教学院史の調査・研究機関として「立教学院史資料センター」の設置が認められ、125年史刊行後も立教学院史の研究をつづけることができるようになった。そのセンター長に私が就任し、山中一弘課長と3人の学術調査員とともに立教学院史研究に携わるようになった。とはいっても、私は経済学部の教員でもあり、なかなか立教学院史研究に時間を割くことはできなかった。それでも課長や学術調査員のおかげで、立教学院史研究はかつてと比べれば格段と進展し、自校史研究としては全国的にみてもかなり高い水準にあるのではないかと思っている。

立教学院史資料センターは、立教学院にかかわる歴史資料を調査・発掘し、実証的な（学問的な手続きをふまえた）研究をおこなうことを基本的な方針としている。したがって、たとえば「栄光の立教学院」などと、根拠なく学院の歩みをほめたたえたり、特定の出身者を過度に賛美したりすることなどは厳に慎まなければならない。また、現在立教大学の校舎に「マキム」とか「ロイド」などと、立教学院の歴史を担ってきた外国人の名前をつけているが、これも何か根拠があるわけではなく、立教学院の歴史に重要な役割を果たしてきた人びとを単に記号化してしまう恐れがあり、見直すべきでは

ないかと考えている。

2 全カリ総合B「立教学院と戦争」の誕生

2011年11月、戦争を体験された立教大学の卒業生有志の働きかけによって、大学のチャペルの敷地内に「平和の碑」が建立され、学院関係の戦没者名簿が納められた。さまざまな議論があったが、大事なのは戦時期の立教学院がどのようになっていたのか、その実態を実証的に明らかにすることだということになり、センターのなかに「立教学院と戦争に関する基礎的研究」なるプロジェクトが立ち上がった。文部科学省の科学研究費補助金の交付を受けることができ、研究は一挙に進展し、その成果は『ミッション・スクールと戦争—立教学院のディレンマ—』（老川慶喜、前田一男編著、東信堂）に結実した。執筆者は12人に及び、これによって戦時期における立教学院の実態がかなり明らかになったと自負している。

センターは、立教学院の自校史教育にも責任をもつことになっていたので、執筆者の間でこれを素材に全カリで授業を行おうということになったのは、きわめて自然ななりゆきであった。こうして、全カリ科目「立教学院と戦争」が誕生したのである。

「立教学院と戦争」では、①聖公会と学院首脳部の動向、②立教大学の教学政策、③戦時下の学園生活などについて講義をし、レポート試験を実施した。同じキャンパスで学んでいた先輩たちが、戦時期にどのような学生生活を送ったのかをきちんと学ぶことにより、戦争とはどういうものか、学ぶとはどういうことか、平和の大切さなどいろいろと考えてもらいたいというのが講義のねらいであった。

立教学院は、まもなく150周年を迎えようとしている。立教学院の歴史は、日本の近・現代のあゆみと重なり、それを学ぶことは日本の近・現代史を学ぶことに通じる。自校史教育の目的は、愛校心を涵養することではない。立教学院というみずからの学び場を、日本、あるいは世界の歴史のなかに客観的に位置づけて、そのあゆみを批判的にみる目を養うことにあると思う。

現在、センターが担っている全カリ科目は「立教大学の歴史」のみとなってしまった。私は3月で定年退職をするが、センターには「立教学院の戦後史」「立教学院の学問」など、「立教学院と戦争」にかわる全カリ科目を早く用意していただくことを願っている。

おいかわ よしのぶ
(本学経済学部教授／
学院史資料センター センター長)